



2025年3月19日

大船渡市山林火災 避難所【三陸公民館、越喜来小学校】 Youth for Ofunato 活動報告書

Youth for Ofunato 代表 及川正嗣(群馬大学3年)
いわて連携復興センター 船戸義和(アドバイザー)

1. 活動趣旨及び概要

2月26日に大船渡市で起こった山林火災により、三陸公民館が避難所に指定され、近隣地域の住民約250人が避難した。当団体は、近隣地域出身の学生及び高校生から成る先発隊が3月1日から三陸公民館で活動し、避難者からの聞き取り等を通じて効果的な活動を模索しながら活動した。3月4からは越喜来地区内のもう一つの避難所となった越喜来小学校にも活動の場を広げた。更に、3月5日以降は関東在住の学生も順次加わり、3月12日の避難所閉所までの12日間にわたり活動を行った。

具体的には、避難生活が続く方々の体調悪化を予防するためのラジオ体操実施、階段の多い避難所内での配膳補助、子ども達との交流(遊び相手)と見守り、避難所閉所時の物品整理や清掃等、その時々ニーズに応じた活動を実施した。(※活動の様子は「7. 活動詳細」に記載)

2. ラジオ体操参加者数(概算)

	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11	合計
三陸公民館 10:00~	50	50	60	60	50	60	55	55	20	460
越喜来小学校10:00~	-	75	60	60	70	※感染症発生により中止				265
三陸公民館 14:30~	30	40	70	70	50	60	70	20	-	410
合計	80	165	190	190	170	120	125	75	20	1,135

3. その他の活動

	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12
配膳(昼・夕)*	夕									昼		
子ども交流**												
児童見守り(越喜来小)												

*3/1は夕のみ、3/10は昼のみ実施

**三陸公民館キッズルームと震災資料館「潮目」にて実施

4. 活動メンバー 計15名

【先発隊メンバー】3/1~3/11 最長10日間

名前	所属先	学年	役割	出身地
及川 正嗣	群馬大学情報学部情報学科	3年	代表	越喜来(浦浜西区)
及川 雄大	東北工業大学産業デザイン学科	3年	広報	小友町
刈谷 佳史	石巻専修大学工学部情報電子学科	1年		越喜来(浦浜東区)
神津 心	東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科	1年		越喜来(浦浜仲区)
葛西 日向	岩手大学工学部システム創成工学科	3年		越喜来(浦浜仲区)
葛西 姫依	大船渡高校	高校2年		越喜来(浦浜仲区)
金野 愛華	大船渡高校	高校2年		赤崎町



【後発隊メンバー】3/5～3/12 最長7日間

名前	所属先	学年	役割	出身地
魚島 彩水	群馬大学情報学部情報学科	2年	副代表	熊本県
原田 隆史	青山学院大学教育人間科学部心理学科	1年		神奈川県
朝比奈 和泉	慶応義塾大学総合政策学部総合政策学科	1年		東京都
若井 茉梨	青山学院大学法学部	4年		東京都
吉開 百音	青山学院大学法学部	4年		愛知県
柳瀬 円実*	大船渡高校	高校1年		綾里
神津 凜	津田塾大学英語英文学科	3年		越喜来(浦浜仲区)
富澤 舜基	東京成徳大学経営学部経営学科	3年	協力	越喜来(崎浜)

* 期間中に新規加入

5. メディア掲載一覧

- ・朝日新聞「山林火災の避難所に大学生ボランティア カレーで「つらさ吹き飛ばす」」
<https://x.gd/1xT3M> (2025年3月1日)
- ・NHK盛岡「運動不足解消を 避難所でラジオ体操」
<https://www3.nhk.or.jp/news/morioka/20250303/6040024652.html> (2025年3月3日)
- ・IBC岩手放送「【山火事】大船渡市の山林火災 避難所でエコノミークラス症候群予防の取り組み 岩手」
<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/ibc/1768546?display=1> (2025年3月5日)
- ・岩手日報「古里元気づける大学生」(2025年3月5日)
- ・TBS「雨の効果も...岩手・大船渡市の山林火災「延焼拡大は見られず」避難所では地元出身の学生がボランティア活動」<https://www.youtube.com/watch?v=OedI5viiXmM> (2025年3月6日)
- ・岩手日報「大船渡・山林火災1週間」(2025年3月6日)

6. 成果と学び

この活動では、近隣地域出身メンバーの「地元のためにできることをしたい」という強い想いを実現できた。また、混乱の多い緊急時の避難所において関東圏のメンバーを含めて迅速な支援ができたのは、2011年から続く当団体の活動の軌跡と、度々地域を訪れて築いた住民との確かな信頼関係が基礎となっていることを実感し、その重要性を学んだ。

実際の活動においては、「毎日のラジオ体操が楽しみになっている」や「学生が前に立ってくると元気がもらえる」などの避難者の反応からニーズを正確に把握し、当初三陸公民館1・2階のみで実施していたラジオ体操を3階や越喜来小学校にも拡大するなど、柔軟に対応することが出来た。また、災害時のボランティア活動における、行動の自己完結や団体内の統率の重要性について、他組織と協働する中で学んだ。加えて、近年の当団体の活動は越喜来地区に限定されていたが、今まで関わりのなかった避難者である綾里地区の住民や綾里地区公民館をはじめ、子どもの遊び場作りを進めたNPO法人、炊き出しを実施した市内の飲食店組合らとも協働した事で、新たな繋がりを得る事が出来た。

7. 今後の展望

今後は、当団体のミッションでもある「大船渡と繋がる輪を広げる」ことに向け、今回得た様々な繋がりを活かして、より多くの人々と協力した活動を行いたい。加えて、地域住民との密なコミュニケーションを継続しリアルな声を活動に取り入れる事で、団体が以前から取り組んできた地域コミュニティの担い手支援をより効果的なものに改善していく。

特に、今回山林火災の被害を受けた綾里地区では、住民が集う機会や活動の担い手が減少する可能性がある事を踏まえ、地区公民館ほかと協働し、コミュニティづくり等のサポートを行っていきたい。

8. 活動詳細

活動写真	内容
<p>ラジオ体操</p> 	<p>三陸公民館でのラジオ体操(左)と、越喜来小学校でのラジオ体操(右)</p> <p>三陸公民館では館内放送を用いて開始10分前にアナウンスを行い参加者を募った。越喜来小学校では各教室・体育館を学生が訪問する形とした。避難所での運動不足解消だけでなく、避難者同士のコミュニケーションの促進に寄与した。</p>
<p>配膳</p> 	<p>炊き出しの配膳(左)と、調理室での集合写真(右)</p> <p>民生委員の方々や越喜来各地域の方々と共に、昼食と夕食各250～350食の配膳を行った。主に2Fの調理室から階段での移動を伴う1F、3Fへの配膳を学生が担当した。残飯や使い切りカトラリーの回収も行った。</p>
<p>越喜来小学校での児童見守り</p> 	<p>小学校で花植えを通じた交流(左)と、小学生との遊びと見守り(右)</p> <p>小学校の先生からの依頼により、授業が終ってから帰りの送迎バスが来るまでの時間を、小学生とともに過ごした。</p>
<p>避難所や資料館での子ども交流</p> 	<p>三陸公民館の避難所子ども交流(左)と、大津波資料館 潮目での小学生との交流(右)</p> <p>他団体が運営するキッズスペースのサポートを行った。避難所で生活する子どもたちの運動不足解消に繋がり、これまで交流することの無かった地元の子もたちとの繋がりを増やすことができた。</p>

以上

大船渡市山林火災 避難所【三陸公民館】 Youth for Ofunato 活動企画書

Youth for Ofunato 及川 正嗣
いわて連携復興センター 船戸 義和

1. 背景

三陸公民館は2月26日の避難所指定から1週間を迎えようとしており、約250人が生活している。必要最低限の物資・食事・衛生用品等の支援は充足しているものの、狭い室内での生活が長く続き、運動不足による避難者の体調悪化や、運営を担う市職員及び越喜来地区住民の疲弊などが懸念される。

Youth for Ofunato は、近隣地域出身の学生及び高校生の先遣隊が3月1日から公民館で活動し、避難者からのヒアリング等を通じて効果的な活動を模索しており、これを継続する必要がある。

2. 活動メンバー

先遣隊：及川正嗣（西区）、及川雄大（小友町）、刈谷佳史（東区）、葛西姫依（仲区）
メンバー：関東圏等の学生及び、大船渡市周辺の高校生、岩手大学杭田研究室（協力）
アドバイザー：船戸義和

3. 内容（案）

① 食事の配膳（補助）

民児協や地域住民によるボランティアが実施している毎食の配膳について、人員不足を補助
（3月1日から実施）

② ラジオ体操

3月3日（月）より毎日、音楽をかけ、学生メンバーの呼びかけによる実施
場所：1階ロビー
時間：10:00、14:30（1日2回）いずれも10分程度
周知：開始10分前に館内放送にて呼びかけ、個別の声かけ
音源：ポータブルスピーカー（無線）

③ 避難者への声かけ

ラジオ体操への参加や、避難者とのふれあいの中で適度な話し相手となり、避難者同士のコミュニケーション促進に寄与する。ただし、過度な声かけは控え、避難者の心情に十分配慮する。

4. 連絡先

Youth for Ofunato 及川正嗣 080-1806-6418
いわて連携復興センター 船戸義和 090-2853-5390



学生団体 ユース・フォー・大船渡
Youth for Ofunato
~大船渡と私たちの未来のために~



特定非営利活動法人
いわて連携復興センター
IWATE Fukkou Collaboration Center